

IPv6 によるインターネット利用高度化に関する研究会第13回会合議事概要(案)

1 日時:平成 23 年 6 月 22 日(水) 13:30~15:30

2 場所:総務省 8 階第 1 特別会議室

3 出席者(敬称略)

(1)座長

齊藤忠夫(東京大学)

(2)構成員

荒野高志(社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター)、依田高典(京都大学)、今井恵一(社団法人テレコムサービス協会)、江崎浩(東京大学)、近藤寛人(社団法人電気通信事業者協会)、清水博(財団法人電気通信端末機器審査協会)、立石聡明(代理:木村氏)(社団法人日本インターネットプロバイダー協会)、中村修(慶應義塾大学)、松本修一(一般社団法人日本ケーブルラボ)、平出利彦(一般社団法人日本ケーブルラボ)、村松茂(財団法人日本データ通信協会)

(3)総務省

桜井総合通信基盤局長、原口電気通信事業部長、前川総合通信基盤局総務課長、泉データ通信課長、田邊データ通信課課長補佐

4 議題

(1) 地域 ISP、CATV、モバイルにおける IPv6 インターネット接続サービス等について(構成員/オブザーバーからのプレゼンテーション)その他

5 議事要旨

・資料 13-1~13-4 について、(社)日本インターネットプロバイダー協会、(株)グローバルネットコア、NTTコミュニケーションズ(株)、丸紅アクセスソリューションズ(株)から説明。

- トランジットに関しては、追加料金に関してどのような状況か。
- NTT コミュニケーションズについては同一料金。
- 丸紅アクセスソリューションズも同じ費用。
- 他社の状況は何かご存じか。
- 無料で提供するということは最近増えているように聞いているが、まだ有料でという方もいると思う。
- NTT コミュニケーションズでも 6 月から料金がフラットになったということで、これから対応が進む段階にあるのではと思う。
- 地域の中小 ISP は、IPv6 サービスの需要があれば急激に対応可能なのか。
- 規模に比例する部分があるので、規模が大きくなればなるほど設備対応の時間がかかると思う。中小 ISP は、逆に規模が小さくなればなるほど、むしろ素早く対応すると考えている。

- 資料 13-1 で ADSL の場合は対応が難しいというのは、どういう障壁があるのか。ハードの問題か。
- ADSL は、利用自体が減少している中で新たな設備を投入するのが事業的に難しい状況にあるからではないかと推測している。
- 局側の設備の対応か。
- 局側と宅内の両方である。
- ADSL がまだ無視できないユーザーがいるので、もう全部やめるということでなければ、ADSL の対応が残るとことになる。
- NTT の動向や、その他のキャリアの動向もかなり大きいと思っている。

- 資料 13-3 の参考資料で、プレゼンス管理が出ているが、デファクトスタンダードも含めて標準化は進められそうか、あるいはどういうところが問題になりそうか教えて欲しい。
- まだ構想の段階である。課題は IPv6 アドレスを色々なデバイスに割り当てるという場合に、そのデバイスとネットワークをどうやって結ぶかという部分である。色々な物にアドレスがついてくると、ネットワーク接続の主力になるのは無線だと考えている。いつから具体的にサービス化できるかは決まっていないが、早く実現したい。
- P2P やキャッシュについては地域 ISP でも積極的に取り組みたいと思っている。最近盛り上がってきている分野ではないかと思う。IPv4 か IPv6 かというところはあまり問題ではなく、ISP 同士が連携していれば実現できるものなのかと考えている。
- IPv6 になってもアドレスは固定ではなく変えられたり、ISP 間で IP アドレスの振り方を連携して行うことがあってもいいのではないかと思う。IPv6 で ISP の負担が減るかというようなことも含めて、まだ検討しなければいけないことがたくさんある。もし、ISP が喜んで IPv6 を導入するという話に結びつけば良いと思う。

・資料 13-5～13-6 について、日本ケーブルラボ、(株)ジュピターテレコムから説明。

- 前回の会議で議論になった NTT のフレッツネクストへ移行する際に 28,455 円の初期工事費が必要になる点が気になっている。現在、新規の場合は、キャンペーンを使うと 2,100 円の工事費になる。また、B フレッツからのフレッツネクストに契約変更する方は、11,340 円の工事費であり、移転を伴う場合の契約変更の場合は一切工事費がかからないようだ。このようにケースバイケースだが、2012 年までに NGN へマイグレーションを行うならば、ユーザーが混乱しないよう相当考えなければいけないと思う。
- 初期工事費はビジネス戦略の問題なので、第三者がとやかく言うべき問題でないという考え方もできる。他方で、NTT のサービスは総務大臣が認可する活用業務であり、自由な価格付けでいいのかは、判断が難しいところである。また、公正競争問題だけではなく、IPv6 へのマイグレーションにより IPv4 アドレス枯渇問題に対応していくというのが、FTTH ユーザーのうち NTT のフレッツを利用している 75% のユーザーに対しては喫緊の課題になっている。
- また、NTT 以外の通信事業者が、IPv4 ユーザーを IPv6 に移行させる際の料金に影響を与えるのではないか。

- J:COM は新規ユーザーに 6,000 円の初期費用を取っているが、既存ユーザーが IPv6 のサービスを検討、希望するときに、新たに追加して料金をもらう予定になっているか。
- ケースとしては2つある。既に DOCSIS3.0 のモデムを使っているユーザーの場合は、モデムやネットワーク構成が基本的には変わらないので追加料金なしでいけると思う。もう一つは、DOCSIS2 のモデムを使っているユーザーの場合で、モデムの変更に工事が発生するので、工事費もかかるだろう。ただし、今の工事費も、J:COM はそれほど高い料金は取っていないと理解しており、今の範囲内でサービスのアップグレードとして対応できると思う。

・資料 13-7 について、(株)NTTドコモから説明。

- この夏に発売される新しいモバイル WiFi ルーターも IPv6 対応しているのか。その場合、無線 LAN 側にはどういふアドレスが振られるのか。
- IPv6 対応の有無を含めて、今情報を持ち合わせていない。
- Xi 端末網では、moperaU で IPv6 接続が可能ということは、Xi 端末ではなくても moperaU を経由すれば IPv6 接続できるのか。
- LTE のコアネットワークも含めて IPv6 対応しているので、3G のユーザーは LTE のネットワークを通らないため、IPv4 しか使えない。
- 事前に IPv6 を ON に設定しないとイケないのか。
- ユーザー自身が IPv6 を利用することを確認していただくためである。
- 将来はデフォルトで ON 設定になるか。
- 今答えられないが、当然 IPv6 の普及状況によっては、デフォルト設定を変えるということは考えられる。
- 今後 LTE 端末が増えてくると、IPv4 のグローバルアドレスはいずれ配れなくなると思うが、その対策については既に計画されているのか。
- 今デュアルスタックで IPv6 を使えるようにしていることが対策の1つと考えている。
- 今後 LTE はたくさん端末を販売する計画だろうから、いつ頃 IPv4 アドレスがなくなるという見通しはあるか。
- なくなることを見越して、IPv6 サービスをスタートしたところというふう考えている。

・その他

- JAIPA のホームページで ISP の IPv6 対応状況が公表されているが、情報がアップデートされていないような気がする。日本全体として、どのぐらい IPv6 対応できているのかが分かると、コンテンツプロバイダーは心配せずにサービスができると思う。そのため、アップデートするために何らかの対応を取った方がいいのではないか。
- JAIPA と相談しながら、状況を示していければと思っている。
- 政府の IPv6 対応については、政府計画において電子政府のうち特に外部システムを IPv6 対応することになっている。現在、政府全体でどこまで対応ができているかを、内閣官房 IT 担当室を中心に調査している段階である。IT 担当室とも相談しながら、ど

う政府の IPv6 対応進めていくかといった議論をさせていただきたいと思っている。

【その他】

- 次回の開催等について連絡。

以上